

Fuji Champion Race Series Round 2

ROADSTER CUP NC/DEMIO RACE/8Beat Round 2



出走26台で6クラスに分かれているこのレース、予選でトップタイムを出したのはコースレコードを更新しての8 Beat JP-2Rクラス 85 オートビジョンFR-S たしろじゅん 2'02.884。JP-2Sトップ 07 サンオアシス86 伊藤毅が2'05.447で総合3位のタイム。ロードスターカップはNCオープンクラス 0 モディーズベリーケンオート NC 小原健一がコースレコードをマークし2'08.500で総合7番手からのスタート。デミオレースでは75 145デミオ改withSKR 西山隆が2'19.574でクラストップからのスタート。決勝ではスタート直後の混乱から85たしろが出遅れたものの3周目にはトップを奪い返す。その後ろでは8 Beatとロードスターの上位軍団の激しいバトルが各所で見られる8周のレースは85たしろが守りきり総合優勝。ロードスターNCオープンは0 小原が開幕から2連勝、ロードスターNCチャレンジは71 登坂紀が優勝、デミオレースも75西山が2連勝という結果となった。0小原は「86の人たちがスタート直後にごちゃごちゃしているうちに前に出られた。同じ2Lの車として、もっと前に行きたいところですが、特性の違いとかがありますからまあ仕方ないのかな」と話していた。



RESULT リザルト RSC NC-O

Rank No.	Name
1	0 小原 健一
2	64 芝本 淳
3	8 菊池 聡
4	21 新井 敏克
5	7 高橋 裕史
6	80 染谷 浩一
7	25 橋川 学



RESULT リザルト RSC NC-C

Rank No.	Name
1	71 登坂 紀
2	18 ランマン
3	33 石井 鋼一



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	75 西山 隆
2	34 常盤 岳史
3	9 村田 哲也
4	51 戸田 和彦
5	5 里見 景一



RESULT リザルト 8Beat 2S

Rank No.	Name
1	07 伊藤 毅
2	49 清 充秀
3	08 岸 昭英
4	26 榎本 洋一
5	14 石井 尚顕



RESULT リザルト 8Beat 2R

Rank No.	Name
1	85 たしろじゅん
2	99 古田 聡



RESULT リザルト 8Beat 3S

Rank No.	Name
1	1 木幡 修一郎
2	13 市川 忠康
3	36 今堀 隆三郎

ROADSTER CUP NA6/NA8/NB8

Round 2



NA6/NA8/NB8とクラス違いが混走するこのレースだが、今シーズンも毎回混走レースと思えないような全クラス入り乱れての激しい戦いが行われている。予選でポールポジションの座を射止めたのはNA8 1 大山ベリリアクレMotyNA8 山形卓、2'07.462のタイム。フロントローに並ぶのはNB8 11 JoyアクレMotys☆NB8 戸田裕一、2'07.569。NA6クラストップは総合5番手7 大山ベリリアクレMotyNA6 茂木文明 2'08.106となった。決勝でも予想通りに随所で激しいバトル、1山形と11戸田のトップ争いも周回ごとに変わったり、コーナー各所を並んで入ったりと今回も好レースを魅せてくれた。8週の決勝をトップでチェッカーを受けたのはNB8 11戸田、2位にはNA8 1 山形の順、NA6は7 茂木が逃げ切り優勝した。各クラスとも開幕戦の優勝者が連勝という結果となっている。レース終了後 11 戸田は「クラス違いなんか関係ないですね、向こうがストレート速い分こちらはコーナーでラインを変えて対処です」 1 山形は「クラス違いなんか関係なく、全部の一番でなくちゃね」とコメントしていた。



RESULT リザルト RSC NA6

Rank	No.	Name
1	7	茂木 文明
2	23	山川 稷
3	5	入江 直
4	76	辻本 均
5	27	野木 強
6	82	椎名 団



RESULT リザルト RSC NA8

Rank	No.	Name
1	1	山形 卓
2	88	山田 健介
3	81	須藤 裕輝
4	71	山本 純一



RESULT リザルト RSC NB8

Rank	No.	Name
1	11	戸田 裕一
2	91	神谷 誠
3	75	澤田 薫
4	3	羽入 大輔
5	78	赤石沢 清人
6	8	関口 聡介

N1400/N1000/DEMIO(N1)

Round 2



RESULT リザルト DEMIO(N1)

Rank	No.	Name
1	103	R.P.M/H



RESULT リザルト N1400

Rank	No.	Name
1	72	高橋 ノボル
2	3	山田 大輔
3	21	大竹 直
4	222	小野田 篤士
5	26	斎藤 和実
6	13	北川 信弘



RESULT リザルト N1000

Rank	No.	Name
1	41	佐藤 英二
2	83	松本 英之
3	2	てらだ ただし
4	54	垣生 彬
5	28	川井 秀晃
6	27	山崎 じん

土曜日に予選、決勝とも行われたこのクラス。午前中の公式予選でポールポジションを決めたのはN1400クラス5 アネックス内藤銀金μEP82 水谷明彦 2'10 009。N1000クラストップは41 マルチクラフトSCP10プラクト 佐藤英二の2'19.091。デミオでは103 阿部組SWALLOWSDেমіоW R.P.M/H 2'22.927。午後の決勝ではスタートでフロントローに並んだ92 藤井がスタート出来ず、その際に3番手から3山田がトップを奪う。その後も毎周回ごとにトップが替わり上位5台が一団となつての激戦が繰り広げられる。ラスト2周目でトップに立ったのは、予選8番手からじわじわと順位を上げてきた72 アレスQSグローバルμ82 高橋ノボル、なんとかそのまま押さえてトップでチェッカーを受けた。N1000クラスでは41佐藤が逃げ切って優勝。デミオは103 R.P.M/Hという結果となった。72高橋はレース終了後「20年間レースをやってきていて初優勝です。すごく嬉しい！」と話し、41 佐藤は「明日、自分の結婚式なんです！今日勝てて本当に嬉しい」と喜んでいた。

Super FJ/FJ1600 Round 2



土曜日に行われた予選でS-FJのトップタイムを出したのは、ここまでランキングトップの41 B-MAXエンドレス10V 今井龍太 1'53.003、2番手に22 ペースメーカー150WM10V 赤堀憲臣、3番手は36 玉三郎M's岩本アルビRT10V 神村悠太というグリッド順に決まった。ウェット路面で始まった日曜日の決勝は、41今井がトップを抑え、その後ろでは激しい2番手争いが前半では続く、その隙に41今井が逃げていくように見えたが、3番手スタートの36神村が8周目にはトップを奪い、さらに徐々に差を広げてトップでチェッカーを受けた。FJ1600は7 WRS SASAO SK02が予選トップ、決勝では3番手スタートの6 WRS TURUWAKA FV 鶴若昂が追いついて優勝した。レース後36 神村は「昨年から4位ばかりで今回どうしても優勝しない」とシリーズには食い込めないのが頑張りでした。良いマシンを作ってくれた周りの方々に感謝です！」と話し、6鶴若は「練習走行で新しいマシンを使ってみたのですが、トラブルで急遽前のマシンにスイッチしました。雨が味方をしてくれて勝てました！」と喜んでた。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	36 神村 悠太
2	41 今井 龍太
3	27 堤 優威
4	22 赤堀 憲臣
5	37 大久保 一成
6	9 倉富 秀索



RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	6 鶴若 昂
2	7 笹尾 徹也
3	38 原田 健

Porsche GT3 Cup Challenge Japan 2014 Round 3-4



今シーズンも全10戦で行われ、第3・4戦は今回のチャンピオンレースと併催で行われたGT3-CUP。第3戦のグリッドが決まる予選でトップタイムを出したのはCup Iクラス66 TeamKRMLS997 Nao 1'58.810のタイム。フロントローには12 雷神997GT3Cup Aquira Stanleyが並ぶ。第3戦決勝はトップを守る66Naoだがなかなか2番手以降を引き離せない。12 Aquiraと16 Michael GREENが激しく追いつけるが、後半は徐々にタイム差を広げポールトゥウィンを飾った。最初のレース中のベストタイムでグリッドの順位が決まる第4戦。ポールは66 Nao、並ぶのは12 Aquira Stanley。今回も激しい展開になるかと思われたが、スタートからクリアに一の隊列になり、トップ集団は等間隔でレースを進めてゆく、10週のレースは後半になり、その差が少しずつ縮まってはきたものの、そのままチェッカーを受けた。優勝は66 Nao、2位にはAquira Stanley、3位に16 Michael GREENという結果となった。カテゴリーIIは93 TEAM 930 RASH 松島豊が優勝。

Round 3



RESULT リザルト Category I

Rank No.	Name
1	66 Nao
2	16 Michael GREEN
3	12 Aquira Stanley
4	21 高田 匠
5	77 MUSASHI
6	84 多賀 正展

RESULT リザルト Category II

Rank No.	Name
1	9 小林 賢二
2	75 南郷 博美
3	93 松島 豊
4	5 上代 昇
5	20 Hideo AKAGI

Round 4



RESULT リザルト Category I

Rank No.	Name
1	66 Nao
2	12 Aquira Stanley
3	16 Michael GREEN
4	84 多賀 正展
5	77 MUSASHI
6	21 高田 匠

RESULT リザルト Category II

Rank No.	Name
1	93 松島 豊
2	75 南郷 博美
3	9 小林 賢二
4	5 上代 昇
5	20 Hideo AKAGI

AE111/ROADSTER NA6

Round 2



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	78 冥賀 直文
2	91 窪田 範明
3	18 塩岡 雅敏
4	31 安藤 智
5	19 加田 充
6	32 松川 智泰



RESULT リザルト ROADSTER NA6

Rank No.	Name
1	2 大野 俊哉
2	24 田辺 良輔
3	43 大井 正伸
4	11 八田 新一
5	1 雨宮 恵司
6	21 あすか

AE86/MR2/N1600/NA1600/SILVIA-180

Round 2



RESULT リザルト AE86

Rank No.	Name
1	240 山口 崇
2	40 柳本 文彦
3	16 朝倉 潤司
4	41 中村 徹
5	17 上條 晃司

5クラス混走のこのレースでは、予選トップタイムはNA1600の12 SPM☆CSヒロPFCカローラ なかむらととき2'12.002、2番手タイムはMR2 78 ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行、3番手にはAE86 40 AS柳本アクレSPM86レビン 柳本文彦といった上位3台はバラバラのクラストップが出したタイムとなる。グリッドはいつものようにマシンの特性により、空きグリッドを作ったスタートとなる。決勝はポールの12なかむらがエンジンがかからないというトラブルに見舞われピットスタート、そんな中を78谷田がトップに立つも4周目にはシルビア 11 REXCELまつおかシルビア 大山雅樹がトップに出る。その後も各所でさまざまなクラスが入り乱れてのバトルが繰り広げられ、12週のレースは11大山が逃げ切った。大山は「タイヤ選択があたりました。ドライだったので落ち着いていきました」MR2 78 谷田は「暑かった！タイヤ選択をミスしたけれど勝てました」ピットスタートから追い上げてクラス優勝のNA1600 12 なかむらは「電気系トラブルでしたがメカニックのおかげでレースが出来ました」AE86 240 ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇は「タイヤはドライ用、前半落ち着いて後半ドライになってきたので作戦勝ちでした」と各クラス優勝ドライバーは話していた。

RESULT リザルト MR2

Rank No.	Name
1	78 谷田 伸行
2	25 藤永 雅彦

RESULT リザルト NA1600

Rank No.	Name
1	12 なかむら ととき
2	31 高橋 賢一

RESULT リザルト SILVIA-180

Rank No.	Name
1	11 大山 雅樹
2	79 長谷川 奉徹